

市川の歌あれこれ

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3333

市川市中央図書館では地域史として市川に関するさまざまな情報を入手し、整備しています。今回は市川に関する歌についていくつかのご質問とその回答、その後の調査等をご紹介します。

これを機に更に情報をお持ちの方はどうぞ図書館までお知らせ下さい。

◆ 市川市の歌の歌詞、カセットテープはないか？

「市川市歌」は、市制15周年を記念して1949（昭和24）年11月に制定。全国の応募歌詞の中から田沢武男の作品が入選、作曲は古関裕而。後に村上正治市川交響楽団理事長が編曲。

⇒『市川市勢要覧』昭和24年版（1949.8）制定前に「市川市歌」として記載されている一番古い文献。

⇒『いちかわ』昭和29年度版

市川市役所・市川市観光協会の4つ折りのリーフレットの表紙に歌詞が記載されている。これはいまの市民向けの市民便利帖に相当するもので、表には「市川市鳥瞰図」と名所旧跡案内、裏面は簡単な「市川市勢概要」が記載されている。

⇒『市川市勢要覧／附商工名鑑』（市川市役所経済課1952）（歌詞のみ記載）

⇒『市川市の教育』市川市教育委員会 昭和61年度版から標題紙裏に歌詞のみ記載

⇒『カセット 市川市歌』（市川市1994）（テープ）

平成6年のアンケート調査では、「市歌を知っている」と答えた人は13.8%と少なかったため、同年の市制60周年を機に忘れられている市歌を再認識してもらおうと文化課がテープを作成し、市内の学校と公民館に配布したもの。

⇒『市川市制施行五十五周年記念式典』（歌詞・楽譜あり）

「市川賛歌」について

前述の市歌の詞に描かれた風景と実情が時代とともに変化してきたことから、1999年に市川讃歌制作市民委員会の要請により作曲された。宗左近／作詞 三善晃／作曲

⇒『ちば文化祭地域文化振興事業 《市川讃歌》透明の蕊の蕊』

（市川讃歌制作市民委員会1999.11）

⇒『カセット 市制施行65周年記念 市民音楽祭』（市川市1999）

市川市合唱連盟による合唱

⇒詩集『透明の蕊の蕊』宗左近／著（思潮社2000）



“市”という自治体の歌、それが市歌。そもそもなぜ日本ではこういった組織で歌をつくるのでしょうか？社歌や校歌などもそうですが、みんなで歌うことで組織の団結を、帰属意識を高めるのでしょうか。国歌もそうですね。『国歌』とは『国家的祭典や国際的行事などにおいて、国民および国歌を代表するものとして歌われる歌』（広辞苑 岩波書店1981）だそうです。また、郷土への愛着や願いを込めて歌う市井の歌もあります。例えば大勢で歌い踊る“音頭”。小さい頃学校で踊らされたあの音頭、覚えて

らっしゃいますか？歌詞に当時が偲ばれますよね。それにしてもこういう歌って有名人の作詞・作曲・演奏が多いのです。

本州製紙株式会社江戸川工場創業70周年記念誌『江戸川のあゆみ』（1992）に「懐かしの工場歌」として工務部の方の寄稿（歌詞を含む）があります。これを以下一部抜粋してみると、

“今から三十数年前の話である。当時の勤労課長の音頭取りで、『江戸川工場歌』を創るという事になった。選者は詩人の故佐藤春夫氏で、破格の賞金もでるといふ。…（中略）…国立武蔵野音大のなんとかいとう学長に作曲を依頼し、当時、コーラス部で多いに唄ったものであるがもいつしか消滅し、今では工場歌の存在すら知っている人もいない。…”

「郷土行徳の歌」⇒『私たちの行徳今昔史・パート1』（本行徳フォーラム1999）

行徳尋常小学校教諭 渡辺浩／作（歌詞、楽譜あり）昭和のはじめごろに歌われていた。

「市川市消防歌」⇒『消防年報』市川市消防局 斉藤勝利／作詞・作曲（歌詞・楽譜）

◆ 「新・市川音頭」は知っているが、新が付かない「市川音頭」を探している。

質問を受けた当時（2001年8月）、ICA（市川市文化祭参加民謡民舞大会を開催している団体）に問い合わせた結果、「新・市川音頭」をつくったときに新しく音頭をつくるということで“新”をつけたが、それ以前に「市川音頭」というものが存在したわけではないのではないかとの見解。

その後の調査結果で、以下の資料で「市川音頭」の存在が確認できた。

⇒『市川市勢要覧／附商工名鑑』（市川市役所経済課 1952）133 ページに歌詞が記載。

市川二業芸能部/作詞

⇒『ほほえみ』第2号（中村印刷 1955）に「市川音頭誕生記」として作詞された萩原菊太郎が寄稿している記事あり。作曲：藤本お喜多、振付：藤間幸寿

そのほか市川に関する音頭や小唄について

「新・市川音頭」

「新・市川音頭：市民の歌だよ踊ろじゃないか」は京葉市民新聞社選定の公募で、作詞は入選一席の小野文雄氏（補作：室町京之介、小島貞二）、作曲は入選一席の中川弘子、中川富佐子氏（補作：村上正治、白石十四男、日本橋きみ栄）、編曲は白石十四男で、歌を二葉百合子、若原一郎が歌っています。振り付けはキングレコード専属の三喜八千代。この振り付けが載った歌詞カード付きの当時の販売レコードは中央図書館で所蔵しています。

⇒『カセット新・市川音頭』（市川市 2000）（レコードよりテープに複製）

「八幡音頭」

⇒『八幡音頭 [楽譜]』（日本ビクター株式会社 1957 より歌詞も複写）

昭和31年ICA初代会長が八幡の唄を作ろうとビクターに依頼し、市丸、曾根四郎による「八幡音頭」が完成。吉川静夫/作詞、大村能章/作編曲

「市川小唄」

吉川静夫/作詞、大村能章/作編曲 市丸/歌（市丸：1906-1997 昭和期の芸者歌手として有名）

⇒『市川小唄 [楽譜]』（日本ビクター株式会社 1957 より歌詞も複写）

「行徳音頭」

⇒『米谷威和男民謡選集 第8集：尺八楽譜』（邦楽社 1986）24-25p（カセットあり）

⇒『藤本瑠丈民謡選集 第8集 三味線文化譜（節付譜入）』（邦楽社 1970）19-20p（ビデオあり）

⇒『全国民謡3巻：草津湯もみ唄～五木の子守唄』（CD）9曲目として収録。歌詞あり。

⇒『ふるさとお国自慢民謡7巻：関東』（CD）12曲目として収録。歌詞あり。

「中山音頭」と「新・中山音頭」

⇒『市川よみうり』2002年8月に「50年ぶりに「中山音頭」が復活」の見出しで掲載。

「中山音頭」を懐かしむ人たちの間で話題となり、盆踊りで“レコードを持っている人はいないか”と呼びかけたところ、中山出身で東京・江戸川区の鈴木幸次郎氏が作曲者と判明。これを中山町内会で復活させた。

「真間音頭」

市川真間三業組合演芸部/作詞・作曲 花柳輔一郎/振付

⇒『市川市勢総覧』（市川市勢調査会 1934）408 ページに歌詞あり。

「日出音頭」

榎本泰子/作詞、二俣松四郎/作曲。日出学園の創立二十五周年に作曲。

⇒『日出学園五十年誌』（日出学園 1984）186-187 ページに楽譜・歌詞あり。

◆ 「真間の手児奈」に関係する歌はないか？

「真間の手古奈」⇒中山晋平/曲 小寺融吉/唄 昭和4年（中山晋平記念館より複製）（楽譜のみ）

「歌劇 手古奈」⇒『青少年音楽台本シリーズ第1巻』（音楽の友社 1955）

安東英男/作詞 服部正/作曲 初演/神田一ツ橋講堂（解説・歌詞・楽譜あり）

「手古奈 謡曲」⇒伊藤憲三/作詞 平富武次/作曲 1968年

「舞踊小唄 手児奈」⇒『舞踊小唄名曲集第4集』（日本蓄音機商会 1940）藤蔭静枝/振付

「TEKONA—手児奈万葉歌オリジナルメロディー大賞受賞曲」

⇒『手児奈フェスティバル』（市川市 2001）楽譜あり。

万葉集に出てくる手児奈にまつわる高橋虫麻呂の万葉歌“葛飾の真間の井を見れば立ちならし水汲ましけむ手児奈し思ほゆ”（万葉集巻9-1808番歌）のオリジナルメロディーを公募した結果、71点の応募があり、東京の園田純子さんが大賞を受賞したものの。